

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

図工の時間にかいた絵が、ろう下にはり出された。その中で、同じはんの春香の絵にだけ、金色の紙がはられていた。市の絵のコンクールに出すことに決まったしるしだ。

「すごいね、春香ちゃん。」

みんなが春香のまわりに集まる中、わたしは自分の席から動けなかった。わたしだって、絵には自信があったのだ。

「春香は、たまたま運がよかっただけだよ。」

帰り道、わたしはつい、そんなことを言ってしまった。いっしょにいた友だちは、何も言わなかった。次の週、わたしは絵の具を返しに、放課後の図工室へ行った。すると、だれもいないはずの部屋に、春香がいた。春香はつくえの上に何まいもの紙を広げて、同じ木の絵を何度もかいていた。どの紙にも、葉の色を少しずつ変えてみたあとがあった。

「何をしているの。」

「次のコンクールに向けて、練習。木の緑って、むずかしいんだよね。」

春香は、絵の具で緑色になった手を見せて、はずかしそうにわらった。

わたしは、何も言えなかった。運がよかっただけなんじゃない。春香は、わたしの知らないところで、こんなにたくさんかいていたのだ。

「ねえ、わたしも、いっしょにかいていい。」

気がつくど、わたしはそう言っていた。

(この問題のための書き下ろし)

問一 春香の絵にはられた金色の紙は、何のしるしでしたか。「しるし」につづくように、本文から二十字まで書きぬきましょう。

出	市
す	の
こ	絵
と	の
に	コ
決	ン
ま	ク
っ	ー
た	ル
	に

問二 「わたしは自分の席から動けなかった」とありますが、このときのわたしの気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 春香の絵のあまりの上手さにおどろき、声も出なかった。

イ 絵には自信があったので、春香の絵が選ばれたことがぐちゃしかった。

ウ 自分の絵だけがはり出されていなかったので、悲しかった。

イ

問三 「わたしは、何も言えなかった」とありますが、それはなぜですか。四十五字まで書きましょう。

っ	ん	ら	言	運
た	練	な	っ	が
か	習	い	た	よ
ら	し	と	の	か
。	て	こ	に	っ
	い	ろ	、	た
	た	で	春	だ
	と	た	香	け
	分	く	が	だ
	か	さ	知	と

問四 最後の「わたしも、いっしょにかいていい。」という言葉から分かる、わたしの気持ちの変化として、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 春香に勝ちたい気持ちから、もう絵をやめたいという気持ちに変わった。

イ 春香をうらやむ気持ちから、自分も春香のように練習したいという気持ちに変わった。

ウ 春香をかわいそうに思い、練習を手伝ってあげたいという気持ちに変わった。

イ

【小5】国語 文章問題 物語文 5 答えと解説

問一（二十五点） 答え：市の絵のコンクールに出すことに決まった

解説：一つ目のまとまりの最後の文から。

問二（二十五点） 答え：イ

解説：すぐあとの「わたしだって、絵には自信があったのだ」と、帰り道の「運がよかっただけ」という言葉から。ウは本文に書いていない。

問三（二十五点） 答えの例：運がよかっただけだと言ったのに、春香が知らないところでたくさん練習していたと分かったから。

解説：すぐあとの「運がよかっただけなんかじゃない」からの文から。自分の言葉と、春香の練習を知ったことの二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①春香は運がよかっただけだと言ってしまっていた

②春香が、わたしの知らないところでたくさん練習していたと分かった

問四（二十五点） 答え：イ

解説：はじめは「運がよかっただけ」とうらやんでいたが、春香の練習を見て、自分もいっしょにかきたいと思った。ア・ウは本文に合わない。